

会 議 録

| | |
|----------------|---|
| 会 議 の 名 称 | 令和6年度第1回行田市総合教育会議 |
| 開 催 日 時 | 令和7年1月30日(木) 開会：午前10時00分 閉会：午前11時35分 |
| 開 催 場 所 | 行田市役所本庁舎3階 305A・B会議室 |
| 出席者(委員) 氏 名 | 行田邦子市長、渡辺充教育長、鹿山高彦委員、 大竹洋平委員、大木華子委員、田口路子委員 |
| 欠席者(委員) 氏 名 | なし |
| 事 務 局 | 学校教育部：細谷学校教育部長、中島教育委員会参事、 石崎学校教育部次長兼教育指導課長、 岡部教育総務課長、上野教育総務課主幹 生涯学習部：中村生涯学習部長、近藤生涯学習課長、 総合調整幹：諸貫総合調整幹兼秘書課長 総合政策部：岡登総合政策部長、川上総合政策部次長兼企画政策課長、 伊藤企画政策課主幹、増子企画政策課主任 |
| 会 議 内 容 | ・議事 (1) 第3次行田市教育大綱(素案)について (2) 学力向上に向けた今後の教育のあり方について |
| 会 議 資 料 | ・会議次第 ・行田市総合教育会議構成員名簿 ・資料1 第3次行田市教育大綱(素案) ・参考資料 第2次行田市教育大綱 |
| そ の 他 必 要 事 項 | 傍聴者 なし |

| 発 言 者 | 会議の経過（議題・発言内容・結論等） |
|-------|--|
| 司 会 | <p>1 開会</p> <p>2 市長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次第の「3 議事」に入る前に、会議の公開・非公開に関する取扱いについて確認させていただく。本日の会議では、個人情報を取り扱う予定がないことから、行田市総合教育会議設置要綱第6条に基づき、公開とさせていただく。また、会議録は、発言者名を明記の上、要点筆記で作成し、市政情報コーナー及び市ホームページにおいて、後日公開させていただく。 ・ それでは、本日の「議事」に入る。要綱第4条第1項の規定により、会議の議長は市長が務めることとなっていることから、ここからは行田市長に進行をお願いする。 |
| 議 長 | <p>3 議事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それでは、暫時、議長を務めさせていただく。 ・ 次第に基づき、順次進めさせていただく。 ・ 次第3「議事」の「(1) 第3次行田市教育大綱（素案）」についてであるが、委員の皆様には既に素案をお配りし、また、目を通していただいているかと思う。 ・ まず、この大綱の対象期間であるが、令和6年度から令和9年度の4年間としている。全体を通した考え方だが、シンプルに長文にならないようにしたため、想いを凝縮した形となっている。指針の1番目から3番目まで、子どもたちの教育のことから始まり、4番目には生涯学習、5番目には人権の関係、この5つの視点で作ったものである。 ・ 皆様からご意見を伺いたい。 |
| 鹿山委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ まず感じたことは、今までの教育大綱と外観が違っているということである。おそらく第2次教育大綱を元に現状に合わせて修正したものではなく、ゼロから作成したものではないかと感じた。 ・ 行田市のこれから向かう教育の方向、つまり、「素晴らしい義務教育学校へ再編していくのだ。」という確固たる信念と、教育に対する強い情熱を感じた。 ・ 個人的には「はじめに」の中の「感性が磨かれていくこと」の部分に特に共感した。大変素晴らしいと思う。 ・ もし付け加えるのが許されるのであれば、教育基本法というのがある。その第一章第一条（教育の目的）の最後の部分に「心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」 |

| | |
|-------------|---|
| <p>大竹委員</p> | <p>とある。そこで、この「心身ともに健康」という言葉を追加するとより良いのではと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ もう一つ、行田市は学校給食に大きな予算を計上しているが、ご存知の通り学校給食というのは、単に子どもたちの飢えを満たせばよいというものではない。安全であることはもちろん、栄養学的にも優れていることが重要である。 ・ また、優れた学校給食というのは、新しいこれからの義務教育学校のセールスポイントの一つにもなる。 ・ そこで、「食育」という言葉を追加していただけたら良いのではないかと思う。 ・ 具体的な挿入箇所だが、一案としてまず「心身ともに健康」については、例えば「1子どもたちの「生き抜く力」を育みます」の4行目、「世界で活躍するためには、」の後に「心身ともに健康で、たくましく生き抜く力…」と続くような、そのような挿入をしたらどうだろうか。 ・ 次に、「食育」については、例えば「3「通いたい・通わせたい」と思える学校づくりを進めます」の5行目、「適切な維持管理をはじめ、」の後に、「食育やICT環境の充実を図るなど、…」と続くように挿入したらどうだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 非常にシンプルでわかりやすい内容になっていると感じる。 ・ 私が思うに、教育に関することは何より家庭の理解が大切である。家庭と学校の両輪の相互理解で、子どもたちの生き抜く力やアイデンティティは確立されていくものと思う。 ・ 学校教育の現場では、市内学校で働く教員が、行田の子どもたちをどう育てていきたいのか、その土台として、この教育大綱の想いを全職員に浸透させていくことが大切と思う。精神部分を磨いて、次に研修などで指導力を高めるような取組みを積み上げていけると、行田市が目指す教育がより良い方向に導かれていくのではと感じる。 ・ また、既に市内幼稚園において、英語を幼少期から遊びの延長線上で学ぶことが行われている。教育に関する新たな刺激が行田の子どもたちに加わっていることを実感している。これが継続されると「英語のできる行田っ子」のイメージが市外にも伝わっていくのではと感じた。 ・ 「家庭の理解」の観点でいえば、これは社会的な問題でもあるが、全国的にも1、2歳の子どもの預かり保育が増えていく傾向と思う。ここで心配なのは、早い段階で子どもを預けてしまうと、親子の接触回数や接触時間が減っていき、家庭中の関係性がどんどん希薄になってしまうのではないかということである。 |
|-------------|---|

大木委員

- この課題に対して行田市としても、家庭での時間や過ごし方に言及した考え方を伝えていくとよいと思う。家庭での芯となるものがなくなってしまうと、教育現場がいくら奮闘しても、生き抜く力やアイデンティティが育たなくなってしまうと思う。
- また、「2子どもたちの「アイデンティティの確立」を支えます」の文面の中にも「主体性」という言葉があるが、そもそもどういう意味で言っているのか、何を基準に言っているのかは気になるところである。例えば、これは自分らしくないことだからやらないとか、これはつまらなくなったからやめるとか、そういう方向性に「主体性」が捉えられてしまうのは心配である。
- 行田市の考える「主体性」をもっと明確に伝えることで、学校や家庭での取組みが変わっていき、それが生き抜く力やアイデンティティに繋がっていく。そのイメージであったら良いのかなと感じた。
- シンプルだからこそ市長の熱い想いと温かみが伝わってくる素晴らしい大綱になっているなど感じた。
- 3点ほど、意見として申し上げたい。
- 1つ目だが、「2子どもたちの「アイデンティティの確立」を支えます」に関連して、行田に関わる職業経験事業を促進するのはいかがか。
- シビックプライドの醸成を図るために、郷土愛より一歩踏み込んで、行田に貢献したい気持ちを養う経験が必要と思う。これまでも、博物館と連携した事業として、博物館で子どもたちが小学生ガイドとして勤めたり、中学生が1日市長体験をしたりと、職業経験事業を実施されている。
- こういった行田に関わる職業を知っておくことで、英語を学んで世界に視野を開きながらも、結果的には行田の未来をつくりたい、行田を大事にしたいと志す子どもも増えてくれるのではないだろうか。
- 行田の歴史を誇りに思うことを土台にしながらも、未来に向けた行田のまちづくりに興味を持ち、アイデンティティの一つとして選択する子どもが現れるといいと思う。
- 現在も中学2年生が職場体験をしているが、例えば市役所や市営施設での受入れを増やすことを検討してほしい。そうすることで行田をもっと学んでもらい、理解を深めそして興味を持つ子どもたちが増えていけばいいと思う。
- 2つ目だが、「3「通いたい・通わせたい」と思える学校づくりを進めます」に関連した、不登校生徒などについてである。

| | |
|-------------|--|
| <p>田口委員</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 義務教育期間は不登校の児童生徒と学校が関わりを続けられるように、現場の先生方が家庭と子どもに、本当に粘り強く働きかけてくださっている。その結果、不登校だった生徒も多くが高校進学を決定して中学校を卒業している。 ・ しかし、例えばその後には高校を中退したら、生徒と家族が相談できる機関がなくなってしまい、孤立する可能性がある。 ・ 社会的な孤立を減らすためにも、医療機関や保健センター、教育支援センターなど、いずれかと繋がっていただけることを制度としてきちんと整備することが必要と感じる。ご検討いただければと思う。 ・ 3つ目だが、「5人権が尊重され、誰もが能力を発揮できるまちなの実現を目指します」に関連して、1行目に「性別や国籍などにより…」とあるが、ここに「障がい」という文言を明記されることを提案したい。 ・ 今の子どもたちを見ていると、障がいを持つ子どもや外国にルーツを持つ子どもも多くいて、それでも自然に、分け隔てなくコミュニケーション出来ているように感じる。今の子どもたちの人権意識というのは洗練されてきているのかなと感じる。 ・ それはどうしてか、考えてみるとやはり障がいのある子、外国にルーツを持つ子が同じクラスにいて、お友達となることで、多様性を受け入れられる環境が日常的にあるからだと思っている。 ・ 厚労省の令和4年の調査で、人口の9.3%が障がいを持っているとあった。看過できない数字と感じたため、インクルーシブな社会の実現を進めるためにも、「障がい」の文言を加えることをご検討いただきたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ まずは、よく練られた素晴らしい教育大綱だなと思った。 ・ 特に「4生涯にわたる学びやスポーツ・文化振興を支援します」について、感じたことを述べたい。 ・ 子どもたちにとって、学習が一番大切なことではあると思うが、それと同時に、身近なところで絵画作品に触れたり、生の音楽を聞いたり、そういう機会を与えられるのは大変幸せなことと思う。このことを教育大綱に盛り込んでいただくことに賛成の気持ちでいっぱいである。 ・ 最近、学校行事が非常にスリム化していると感じる。運動会が午前中で終わってしまって寂しい気持ちになったり、色々な楽しい行事がいつの間にかなくなってしまったり。子どもたちの数が減ってしまっている結果かと思う。 ・ 音楽の観点で言えば、ブラスバンドのある学校が非常に少ない。それもととても残念であるし、合唱にしても人数が揃わない |
|-------------|--|

| | |
|------------|--|
| <p>議 長</p> | <p>と出来ない。クラスが多ければ校内の合唱コンクールのような形の行事ができ、お互いにクラスで助け合い切磋琢磨することも可能だと思う。行田の子どもたち全員がなるべく同じレベルの文化や芸術やスポーツに触れる機会を与えてあげたいと強く思う。その観点からみても、義務教育学校への再編を目指すことは非常に素晴らしいことであると、私は信じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 委員の皆様から、鋭く的確なご指摘やご意見をいただき、感謝を申し上げたい。 ・ まず、鹿山委員からのご提案についてだが、「心身ともに健康」という言葉を入れることでこの大綱がブラッシュアップされると私も感じたため加える方向で考えたい。 ・ 「食育」についてだが、単に子どもたちに学校で食事を提供するだけが給食ではないという点は私も同感であるため加える方向で考えたい。 ・ 次に、大竹委員から頂戴した件だが、学校と家庭の両輪が生き抜く力やアイデンティティを確立するために大切な事であるということ、私もそのように思う。教育大綱でどう表現するかは少し難しいが、行田の教育のあり方や根底にある考え方としてベースの中に持っていたい。 ・ そして、教育大綱を新しくするのだから、行田市の教育行政に携わる全ての人たちに見てもらい浸透させていきたいと私も思っている。 ・ 幼稚園での英語教育は今後も続けたいと思っていて、「1 子どもたちの生き抜く力を育みます」の中でも「英語」という言葉を2回使用している。細田眞由美さんのお言葉で「英語というのは世界をみる窓だ」というのがあるように、英語というツールをうまく使って、世界で活躍するような生き抜く力を育てほしいというのが私の想いである。 ・ 「主体性」については、日本の学校教育現場で一番欠けている能力とも言われている。PISA 学力テストによると、OECD 加盟国と比較して、日本は数学と化学で1位、読解力もかなり上位であると結果が出ている。では何が足りないかということ、自分がどうしたらいいのか「主体的に考える力」とのことである。 ・ 子どもたちがどのように主体性を持つか、主体性とはどういうことなのかを教育現場でもっと噛み砕いて消化していつてもらいたい。簡単に言うと自分のことは自分で考えるということ、夢を実現させるには何をすればいいかを自分で考えることが主体性だと私は思っている。 |
|------------|--|

| | |
|--------------|---|
| <p>渡辺教育長</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 次に、大木委員からのご指摘だが、アイデンティティに関して行田ならではの子どもなりの貢献活動や体験学習をもっと踏み込んで表現できるか、考えてみたい。 ・ また、不登校や引きこもりの子どもたちについて触れられたが、この件で特筆したいのはウイズの活動である。中学3年生の子で1人を除いて他全員が高校に進学したと聞いており、成果を上げている。 ・ ただ、ご指摘のとおりその後高校に進学して社会人になって、どのように自立して社会の中で生活しているのか、その子達のもその後のフォローが出来るような繋がりや制度が作れないものかと私も問題意識を持っている。これは大綱で表現するというよりも、大綱を踏まえた制度上の取組みとして検討したい。 ・ そして「障がい」の言葉を追加したらどうかというご提案であったが、加える方向で考えたい。 ・ 最後に田口委員からのご意見についてだが、人間は一生学び続ける生き物で学び方も様々ある。単に本を読むといった座学だけではなくて、文化・スポーツ・芸術・音楽・これらに自らが参加して表現活動が気軽に出来る学びの場をつくりたい。 ・ 私が常日頃やりたいと思っているのは、本物の芸術や本物の音楽、プロのスポーツ等の本物に触れる機会がある環境を整えることである。子どもの頃に本物に触れることは刺激になり、その後の人生を変える良い経験となる。 ・ 全ての文化活動において環境を整備するのは難しい。これからは「広域」を視野に入れて、近隣の市と協力しながら役割分担で広域化していく必要があるとも考えている。 ・ 学校行事が減っていることについては私も「出来なくなっている」のかなと感じている。教員の働き方改革も言われているが、学校の規模が小さくなっていることの影響が大きいと考えられるため、やはり学校再編をしっかりと進めていくべきと確信しているところである。 ・ 様々なご意見をいただき、感謝申し上げます。大綱に盛り込む部分は盛り込ませていただき、大綱ではなくとも本日皆様からいただいたご意見をベースとして、教育委員会の方で行田市の教育行政をしっかりと進めていただけたらと思う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ この教育大綱に従ってどう具現化していこうか、私共にとって非常に重要な大綱である。全体的な視点で言えばやはり教育大綱そのものが時代に合わせて変わっていると感じている。 ・ 指針の1番目の「生き抜く力」については、通常他自治体の首長は「生きる力」と言っている。ここは行田市長をはじめ私もそうだが、やはり「生き抜く力」で進めたい。利根川で鮭の種 |
|--------------|---|

魚を放すことのように、小さな頃から英語に親しんでもらい英語嫌いをなくしていくイメージで取り組んでおり、今後も力を入れてやっていきたい。

- ・ 次に、指針 2 番目の「アイデンティティ」と「シビックプライド」についてだが、この大綱を市民の皆様が見た時のために、注釈を入れた方がいいかもしれないと感じた。住民の誇りであるとか色々な捉え方がある中で、行田市が何を伝えたいのか注釈があるとより良いのではと思う。
- ・ 次に、指針 3 番目の「通いたい・通わせたい学校づくり」についてだが、中身に「不登校」という言葉がある。これについてはコロナが流行してから令和型の不登校に変わっている。自宅にいてもスマホや SNS、ゲームもテレビもある中で、別に学校に行かなくても楽しめてしまう。不登校を許容する保護者が増えるといった社会の変化が事実としてある。
- ・ 加えて、不登校の状況を補完する学びの場として、フリースクールや教育支援センターなどの学校以外の居場所が増えている。学校に行かなくても学習出来て楽しく過ごせるという風潮が出来つつある。
- ・ さらに、小・中学校で不登校であっても通信制高校に通える進学先も誕生している。再チャレンジ出来る環境があることは素晴らしいことである。
- ・ 結局のところ学校そのものが変化しないと、この風潮に対応できないのではないかと思っている。制服や教室の姿、教員の指導方法もどちらかというところ昭和のままである。今の児童生徒には居心地が悪いのではないか。
- ・ 今後は教育委員会としても、不登校自体を問題行動として捉えるのではなく、魅力ある学校をつくることに注力する。それがここで言う「通いたい・通わせたいと思う学校づくり」に繋がることだと考えている。
- ・ それと大切な事として、児童生徒と教師の信頼関係を作ることが挙げられる。学校は安心安全な場所なんだと思ってもらえる学びの場を作っていきたい。
- ・ なお、「不登校や引きこもり、ヤングケアラーなどで…」のところに「専門機関などと連携して」と書いてあるが、出来ればここは家庭環境も根深い話なので、福祉部門等の市長部局とも連携して支援していくような表現だとより良くなるのではと感じた。
- ・ 次に、指針の 4 番目「生涯にわたる学び」についてだが、例えば小中学校でミニコンサートを開催するなどで、出来るだけ廉価で何か出来ないか、気軽に文化に触れる場の提供を市長と共に検討していきたい。

| | |
|-------|---|
| 議長 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 私が小さい時に教えてくれた先生から、言葉は少しきついが「明日死ぬと思って真剣に生きなさい、永遠に生きると思って勉強しなさい」と言われたことが記憶に残っている。それこそが生涯学習で、今風に捉えれば「多様な学びを支援していく」ことなのかなと感じている。 ・ 総じて今回の教育大綱については、時代に合わせて案を策定していただいたため、是非ともこのまま策定を進めていただき、これを教育長としてしっかり具現化していくことを決意した次第である。 ・ 教育大綱については、以上でよろしいか。 |
| | <p style="text-align: center;">《意見なし》</p> |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・ それでは次に、議事の（２）「学力向上に向けた今後の教育のあり方」について意見交換したい。 ・ お手元に資料を用意させていただいた。これは現在の行田の小・中学校における全国学力テストの結果等についてである。教育は学力テストの結果が全てではないとは思ってはいるが、資料では正答率や県内順位などが行田市は低い。 ・ まずこの結果を委員の皆様とも共有して、これからどのようにして学力を向上させていくかを意見交換させていただければと思っている。簡単に事務局の方から資料について説明してもらいたい。 |
| 事務局 | <p style="text-align: center;">《資料に基づき説明》</p> |
| 議長 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 説明の中で、英語教育実施状況調査の結果として「各学校の先生の見立てで判断した数値であり厳しめに見られているのでは」という話があったが、具体的にどういう意味か。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「CEFR A1（英検３級）相当以上を達成した中学生の割合」であって、何か別のテストをやって点数が出ているものではなく、教師の判断や主観が入って低めに出ているものと思う。 |
| 渡辺教育長 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 例えば英検３級であればテストを受けて点数が出て合格不合格がはっきり出るが、このCEFRの指標は、先生が子どもたちの英語力を採点する通信簿のようなものなので、英語能力に対して厳しい視点を持つ先生が市内に多ければ多いほど低くなるような傾向がある。 |

| | |
|-------------|---|
| <p>議長</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 先生側が、県内統一で同じレベルが保たれていれば同じような点数になるだろうが、行田市の先生は比較的厳しく点数化しているのではないか、それも要因のひとつではないかということである。 ・ ただ、先生の個別採点とはいえ一定の基準を元に点数化されたのだから、他のテストも良い成績ではない以上、先生の見立てが厳しいで済まず話とは思っていない。そもそも全国学力・学習状況調査や埼玉県 of 学力・学習状況調査の英語の点数が実際に低いわけだから、CFER の指標がより平均化されたとしても、恐らくは今の数値とそれほど乖離がないものとする。 ・ 先生たちが厳しめに判定しているかどうかもあるが、行田の子どもたちの英語力を示す指標が低くて驚いている。 ・ 私はよく学校再編の話をする時に、この40年間で児童生徒数はピーク時から6割も減っており、シミュレーションでは今から20年後に今の生徒数から更に4割減る、と説明している。これは行田市にとって危機的状況である。 ・ ただ、このピンチをチャンスに変えることが学校再編であるといつもお伝えしている。この学力テストの結果もそうだが、これだけ結果が悪い、裏を返せばこれ以上悪くならない。このピンチをチャンスに何とかして変えていくのが学校再編である。 ・ どのように統廃合して、どこに学校を設けて、どういう教育内容にしていくのか。再編によって、結果として子どもたちの学力をどこまで上げることが出来るのか。皆さまにとって関心が高いことであり、大きなテーマと思っている。 ・ このことについて、委員の皆様のご意見を伺いたい。 |
| <p>鹿山委員</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちの学力向上について、私は栄養素という視点からアプローチしてみたいと思う。 ・ 学力の問題は、脳と腸の問題も要因の一つであるとする。 “You are what you eat.” という古いことわざがある。「あなたとは、あなたが食べたもの自体」という意味であるが、これはまさに分子レベルではその通りである。 ・ それが一番よくわかるのが胎児や乳児のときである。赤ちゃんがお母さんのお腹の中にいるときや、出産直後、脳が成長しているときには、たくさんの栄養素が必要になる。その中でとても大切でありながら、日本人には不足気味の栄養素がある。それは鉄分である。 ・ 鉄分は脳代謝に必須の栄養素で、7歳までの鉄欠乏は、神経伝達物質代謝の低下、髄鞘化の低下、シナプス形成の低下、それから基底核機能の低下をもたらす。基底核が精緻運動の制御や |

学習・認知などの高次機能に重要な役割を持っている。その結果、認知機能や運動機能の低下につながる。また ADHD や自閉症と併存するともいわれている。

- ・ さらに、鉄欠乏性貧血と統計的に有意差がある精神疾患は、単極性うつ病、双極性障害、不安神経症、自閉症スペクトラム障害、ADHD、発達の遅れなどである。
- ・ 栄養素がいかに脳の発育に大切かということを示したが、では小中学生ではどうなのか。それを調べた人がいる。元東京都の中学校校長先生である。その先生によると、9教科の5段階評定で、5と4の評定者を成績上位群、1と2の評定者を成績下位群とした場合、学習成績の上位群と下位群の食物の摂取状態を調べたところ、一番大きく差があるのが野菜類である。成績上位群は野菜類を多く摂取しているのに対して、成績下位群はあまり摂取していない。
- ・ 思うに、野菜はよく噛まなければ飲み込めない。よく噛むということは脳の発達に役立つ。
- ・ また、野菜には食物繊維が多く含まれていて、腸の健康に役立つ。腸と脳は関連している。
- ・ それから、野菜には「フィトケミカル」がある。これには高い抗酸化力があり、脳や身体が酸化するのを防ぐ。
- ・ これらの理由から、学力に差がついたのではないかと思う。
- ・ 次に、食物の摂取状態に差があるのが、豆類と魚介類である。
- ・ 思うに、魚にはn-3系脂肪酸が多く含まれている。オメガ3とも言うが、実は脳の乾燥重量の約6割が脂質である。人の体の中で最も脂っぽい臓器と言える。
- ・ 食事から摂取する脂肪が例えば、バターなどに含まれる飽和脂肪酸が多いのか、マーガリンやショートニングなどに含まれるトランス脂肪酸が多いのか、サラダ油などに含まれるn-6系やn-9系脂肪酸が多いのか、それとも魚などに含まれるn-3系脂肪酸が多いのか。これは極めて重要な問題である。
- ・ 豆類についてだが、大豆はタンパク質が豊富である。植物性タンパク質はアミノ酸スコアが動物性タンパク質より劣っているという人がいるが、大豆のアミノ酸スコアは100で、肉と同等で優れている。もちろん100より少なくとも組み合わせて食べることによって補い合える。
- ・ また、日本のように土地の狭い国では、大豆を育てることは単位面積当たり、多くのタンパク質が得られるので、食料自給率にも役立ち、行田市の青大豆生産にも貢献できると思う。
- ・ では、実際に成績の振るわない学生に良い食事を摂らせたなら学力が上がるのか。先生によると、知能偏差値が平均的なある中学生が、2年生から3年生にかけて食事の改善に取り組んだと

| | |
|-----------------------|--|
| <p>議長</p> <p>大竹委員</p> | <p>ころ、都内の有名進学校に入学し、現役で都内の医科大学に入学し、運動でも剣道二段になったそうである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ このように、食材に配慮した学校給食を提供できれば、もちろんすぐには言わないが、学力は上がって、いじめや非行は減ってくると思う。 ・ 以前他県でいじめが深刻な問題になったときに、「行田の学校給食に発芽玄米を入れてほしい」ということを頼んで、入れていただいたことがある。発芽玄米にはギャバが多く含まれている。「発芽玄米入りご飯」で、いじめや非行、生徒指導困難校を克服し、学力を上げた学校があるのをいくつかの本で読んだことがあったため、行田市の学校給食にも取り入れていただいたが、なかなか回数は多くならないようである。 ・ 最後に、学力を上げるためには集中力を養うことも大切だと思う。授業で先生の声をただ聞いているのか、それとも集中して真剣に聴くのかでは差がつくのは当然である。 ・ ある学校では朝、運針をさせている。運針とは糸をひたすら針で手縫いする作業だが、それを5分間黙々とやらせて集中力をつけさせているという。 ・ 1 m程度の白い布に、赤い糸をひたすら通す5分間、等間隔でいかに美しく長く縫うことができるか。全校生徒が一心不乱に一斉に運針するという静寂の時間。これを行うことで集中力をつけ、とても高い学力を誇っている学校もある。 ・ 運針以外でもいいので、何かその学校の状況に合わせて、毎朝5分間脇目も振らずに集中させるようなトレーニングをしてはどうか。「継続は力なり」というが、いつかはそれが実を結んでくるのではないかと思う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養と食の重要性についておっしゃっていただいた。やはり学校給食だけではなく家庭での食事も大切である。保護者向けの啓発セミナーを開催したり、学校給食にどう取り入れるかなどが課題と思う。 ・ 集中力についても、行田市として独自の取り組みができるか、新たな手法について考えていきたいと思う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学力がつかないことの原因追及が第一とは思いますが、点数を上げて自信をつけさせたいのなら、子どもたち一人ひとりに直接意見をもらう必要があると考える。何が好きで何が苦手で、苦手にどう取り組みたいか考えさせて、先生もそれを受け入れる関係性がある体制が主体性にも繋がってくると思う。 |
|-----------------------|--|

| | |
|-------------|---|
| <p>議長</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国の市町村に目を向けて、うまくいっている取組みを真似することも必要と思う。行田市であればこれだったら出来るとか、行田流にカスタマイズしてやっていけばいいと考える。 ・ 原因追及と、行田流の取組みの推進について述べていただいた。教育委員会のほうで参考にしていただけたらと思う。 |
| <p>大木委員</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学力について、私は家庭学習の観点から申し上げたい。 ・ 本来、自ら課題を見つけて自ら勉強する姿が理想だが、真っ白なノートに何でもいから勉強したことを書いて持ってきなさいと言われても、それが出来ない子どもも多くいる。ただ緩慢と既に書ける漢字をつらつらノートに書いて提出して終わり、それで良しとするのはいかななものかと思う。そこから一步踏み込んで、あなたはこれをやってくると良いよ、あなたが今弱いのはこれだよと先生が一言言ってあげるだけで学習が進む子もいると思う。先生方も大変とは思いますが必要に応じて積極的な指導もお願いしたい。 ・ あとは、例えばだが高学年でもかけ算九九の7の段が怪しくなっている生徒が思いのほかいるように肌感覚で感じている。そのような生徒は学年を遡って学び直さなければならないことになるが、それは決して恥ずかしいことではない、学校全体が「学年を遡った学び直し」を推奨する空気があるといい。 ・ 今、教育現場でミライシードを取り入れていると思うが、これに「ドリルパーク」というのがある。これは例えば小学校6年生の生徒であっても1年生の教材を勉強し直すことができるため、自分が心配だなと感じる部分を、学校の一斉授業の中ではなく家庭学習の中で日常的に活用出来たらいいと思う。 ・ そもそも全国学力テストの問題と、学校の定期テストの問題では形式が少し異なっていて、全国学力テストの方はどうも文字が多くて読む力が必要な問題が多く構成されているように感じる。普段のテストでは経験しない長文を見ただけで抵抗感を持ってしまう子も多いと思う。全国学力テスト対策として、こういう問題もあるんだよというのを経験させてから臨んでもらうのも良いと思う。 ・ 最後に、先生方のメンタルのフォローをどうかお願いしたい。先生方は現場で本当に疲弊しながら毎日頑張っている。一生懸命やってくれていても行田ではこの結果、と言われてしまうと先生方も残念に思うはずである。毎日奮闘されている先生方をフォローする体制づくりを是非お願いしたい。 |

| | |
|--------------|---|
| <p>議 長</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ たった一つ躓いてしまうとその影響でどんどん追いつけなくなった経験が私にもある。遡って学び直すことは大切で今はそのトレーニングツールがあるため、うまく活用していったらと思う。 ・ また、全国学力テスト対策をするかどうかだが、私はある程度やる必要はあるかなと思う。結果に対して先生方も落ち込んでしまったり自信をなくしたりする。それをなくすためにもテスト対策について検討していきたい。 |
| <p>田口委員</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 知り合いに学校の先生がいて聞いたことがあるが、やはりタブレットを使った学習には課題を感じているという。導入してもなかなか点数に反映されてこないということは、やはりタブレットの使い勝手から学び直したり今の使い方を考え直したりする必要があると思う。 ・ それから、成績の優れた学校に打診をしてみて、どう取り組んでいるのか学びの場があってもいいと思う。例えば子どもたちの睡眠に関してだが、今の子は低学年でも遅い時間まで起きていると聞く。睡眠時間が非常に少ないことは学力にも影響が出ているのではないか。とある中学校では、給食後に20分間のお昼寝休憩を取るようになっている、そのお陰で集中力が高まって良い効果が出ていると聞いたことがある。こういった取組みを他校から学び活かしたら良いと思う。 |
| <p>議 長</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ ご指摘いただいたタブレットの件も含めて、教育委員会で色々と問題意識はあると思う。色々やっても学力テストの結果は悪いわけなので、何故こうなっているのかをしっかりと分析してほしい。 ・ よく「現状維持は後退だ」と言う。現状維持では駄目で、本日委員の皆様からも様々なご提案をいただいているところである。教育委員会には新しいことにチャレンジして行ってほしいと思っているが、教育長のお考えを伺いたい。 |
| <p>渡辺教育長</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「勝ちに不思議な勝ちあり、負けに不思議な負けなし」という言葉がある。負けた理由は必ずあるということである。本日委員の皆様からのご指摘を受けながら、確かにその通りと感じる。 ・ 先ほど大木委員からもご指摘があったが、今年度にミライシードを導入して子どもたちにとって分かりやすく家庭でも勉強が出来る体制をつくったところである。 |

| | |
|------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> • また、日々忙しい学校の先生への対策として校務支援システムを導入して雑多な事務を効率的に進められるようなソフトも取り入れているところである。 • 今後もタブレットをうまく使っていきたいと考えているが、タブレットには長く使うと目が悪くなるとか姿勢が悪くなるとか別の課題もある。 • 節度を持ってきちんと使う。つまらない内容を画面に映しても子どもたちは見てくれない。ゲームとは言わないまでも楽しめるようにして学力を上げていくことをやっていきたい。 • それと、授業の改善が課題である。やはり子どもたちに授業をする上で、自分たちのイメージだけで授業されては困る。先生方と共通認識を持ちながら授業を改善していきたい。 • 全般的にはやはり学校のDX化を進めていく。たしかに行田の子どもたちはタブレット操作が少し不得意なのかなと肌感覚では感じているところである。今後AIなど色々な分野でDX化は進んでいくため、タブレットなどの課題を抑えつつ新しい波に立ち向かっていきたい。 |
| 鹿山委員 | <ul style="list-style-type: none"> • 出来る出来ないは別として、家庭学習の向上について例えば、希望する保護者の方に1週間に1回程度学校に来ていただいて、子どもたちとは別な教室で、子どもたちが来週学習する授業の要点やつまづきやすい箇所を先生が教えるというのはいかがだろうか。そうすればもし子どもたちが家庭で学習中にわからない所があった時、保護者が教えてあげられる。お父さんお母さんすごいなとなって、親子の絆も深まると思う。 • 要するに子どもたちだけではなく保護者の方も一緒になって学力向上の取組みが何か出来ないか。先生方の働き方改革もあって難しい部分もあるかも知れないが、取組みのひとつとしてよいのではないかと考えた。 |
| 議長 | <ul style="list-style-type: none"> • 学校の世界というのはすごく保守的という風を感じている。現状維持は後退であるため、やはり状況や時代の変化に合わせて新しいことにチャレンジしていくマインドが必要と思う。 • 保護者に次回授業の内容を教えてみるというご提案については、それが教育現場で出来るか私も分からないが、学校だけではなく家庭での学習環境や自学のサポート、更には食事も大切であるということ、私も認識を新たにしたところである。 |
| 大竹委員 | <ul style="list-style-type: none"> • 学力については繰り返しになるが、何のために勉強しているのか理解することが重要である。 |

| | |
|------------|--|
| <p>議 長</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 私も小学生の頃、学校に行ったらただ漠然と勉強するものだと思ってやっていたが、やはり目的意識を持つとやる気が出てくる。宿題もただこなしているだけの子が多いと思う。そもそも何のために宿題があるのか、「何のため」の追求を先生も子どもたちもしていくといい。 ・ 情報がたくさん入ってくる中を今の子どもたちは生きている。とある大学の教授は、何のために勉強するのかの理由を3つ挙げたうちの1つに「自分で物事を判断するため」と言っていた。こんな風に勉強することの目的について行田市共通の考え方を示せば、子どもたちも保護者の方も勉強することの意義が分かり、それが学校に対する理解にも繋がっていくのではないかなと思う。 ・ 何のために学ぶのかが理解できない教科は日に日に出来なくなっていった経験は私にもある。反対に、学ぶ目的が理解出来た教科はどんどんと面白くなっていった。何故学ぶのかの目的意識を持つことが主体性にも繋がると思う。子どもたちの主体性を引き出すような取り組みをしていきたいと思う。 ・ 他にご意見等ないので、これにて本日の議事を終了する。 |
| <p>司 会</p> | <p>5 閉会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 以上で、令和6年度第1回行田市総合教育会議を閉会とする。 <p style="text-align: center;">〈閉 会〉</p> |